



事例 ◎ 日本ビジネスシステムズ株式会社

「Nimsoft Monitor」を導入し クラウド時代の監視サービスを実現

ITインフラと情報系アプリケーションを得意とするシステムインテグレータ(SIer)、日本ビジネスシステムズ。同社が提供しているマネージドサービスの分野では、クラウドの普及などを背景に市場環境が大きく変化しつつある。その変化に先んじて、同社は戦略的な一手を打った。日本語版の第1号ユーザとして、Nimsoft Monitorを導入したのである。これを活用することで、同社は監視サービスのサービスレベル及び業務効率の大幅な向上を目指す。さらに、Nimsoft Monitorは新しいビジネスエリア開拓への期待も担っている。



複雑化するITインフラに対応する ワンストップのマネージドサービスを

日本ビジネスシステムズ(以下、JBS)はITインフラとオフィス向けの情報系アプリケーションに強みを持つSIerである。情報システム的设计・構築だけでなく、保守・運用も含めて幅広いサービスを提供している。同社社長の牧田幸弘氏は、近年のビジネス環境を次のように概観する。

「数年前から仮想化、サーバ統合の案件が非常に増えており、2011年以降はデスクトップ仮想化のニーズが高まっています。また、お客様から『クラウドとオンプレミスの混在する環境をすべてサポートして欲しい』という声も多数寄せられるようになりました」

JBSは、クラウドサービスの浸透に伴い複雑さを増しているITインフラをワンストップで包括的に運用・管理するマネージドサービスを提供している。

さらに牧田氏はマネージドサービス

について次のように説明する。

「米国では監視やサポートを専業で行っているMSP(マネージドサービスプロバイダー)が大規模にビジネスを行っています。しかし日本では、システムごとに、それを構築したベンダーに運用管理を任せているのが現状です。これではベンダーごとに監視・サポートが分かれてしまい、非常に効率が悪い。クラウド時代には構築ベンダーに関係なく横串で包括的に管理するサービスが必要なのです」

その包括的なマネージドサービスを一層強化するため、2011年12月、JBSはCAの「Nimsoft Monitor」を導入した。CAはNimsoft Monitorをグローバルで提供しているが、日本語版はリリースされたばかり。その第1号ユーザがJBSである。

既存のITサービスをカバーできる 包括的モニタリングソリューション

Nimsoft Monitorは、複雑化する

ITインフラに対応するモニタリングソリューションである。その導入の経緯について、マネージドサービス本部マネージドサービス部部長の祝迫俊志氏はこう語る。

「当社のマネージドサービスの拠点は、24時間365日体制でお客様を支えるサポートセンターです。その大きな役割はシステム監視と障害発生時の保守対応。従来の監視システムはマルチテナントを考慮したものではなかったため、センターのエンジニアが手作業で対応する部分が多かったのです。しかし、人手での処理には限界がありますし、サービスのレベルを高めることも難しい。そこで、新しいソリューションを探していました」

現在、JBSが監視サービスを行っている企業は急増しており、引き合いも多い。従って、JBSにとってサービス基盤の強化は急務だった。

同社がソリューションに求めた基本要件は、「第1に、多数のユーザ企業のITインフラを包括的に監視できること。第2に、一定の自動化が可能なこと」(祝迫氏)だった。JBSでは、日本で提供されているモニタリングソリューションのいくつかを検討したうえで、Nimsoft Monitorを選定した。

「2011年の6月ごろ、日本CAからNimsoft Monitorの日本語化のスケジュールを聞き、当社の既存サービスをすべてカバーする機能が揃っていることを確認したうえでNimsoft Monitor



日本ビジネスシステムズ株式会社
代表取締役社長

牧田 幸弘氏
Yukihiro Makita



日本ビジネスシステムズ株式会社
執行役員
営業推進部
部長

富澤 和馬氏
Kazuma Tomizawa



日本ビジネスシステムズ株式会社
マネージドサービス本部
マネージドサービス部
部長

祝迫 俊志氏
Takashi Iwaizako

を選びました」と祝迫氏は振り返る。

Nimsoft Monitorを導入後、JBSはこれを顧客企業への監視サービスに適用し始めている。既存顧客にとっては従来のシステムからの切り替えになるが、「Nimsoft Monitorの導入でインフラに関わるコストが減少します。従って、トータルコストとして最終的にお客様に還元できるようになっているので、切り替えに納得していただいています」（祝迫氏）とのこと。

また、新規ユーザに関しては、最初からNimsoft Monitorベースの監視サービスが提供される。

既存顧客の理解を容易に得られた理由の1つは、従来からのサービスに加えて、プラスアルファのサービスが実現するからだろう。

たとえば、顧客に最適化されたレポートニング。Nimsoft Monitorが搭載している機能だけでなく、JBSは自社保有のアセットも活用しつつ、カスタマイズしたポータル画面を提供することができる。「Nimsoft Monitorが標準で提供するシステムの死活情報やパフォーマンス情報だけでなく、ライセンスの契約情報も見たい」といったニーズにも対応できる。こうしたカスタマイズの容易さも、Nimsoft Monitorを選定した理由の1つである。

また、従来はエンジニアがアラートを確認すると、それがどのユーザ企業のシステムかを特定したうえで、ユーザ企業に通知すべきかどうかを判断していた。こうした人間系のプロセスを自動化することで、通知までの時間を大幅に短縮することができた。

「以前は、最短の場合で障害発生から30分以内の通知をお約束していました。Nimsoft Monitorによって自動化することで、これを10分程度、つまり3分の1に短縮できる見込みです」と祝迫氏は話す。

監視サービスの提供だけにとどまらず 新しいビジネスエリアの開拓へ

さらに、JBSはNimsoft Monitorに戦略的な意味を持たせている。執行役員営業推進部部長の富澤和馬氏は次のように話す。

「私たちが大きな期待を寄せているのは、新しいビジネスエリアの開拓です。Nimsoft Monitorによって、IaaSやPaaS、SaaSなどを含めたトータルな監視サービスをいち早く市場に投入することができます。また、付加価値の高い監視サービスを提供できるとともに、様々なノウハウを蓄積することも可能になります」

顧客企業のシステム全体を監視する

ノウハウを磨くことで、同社は日本におけるマネージドサービスに新風を吹き込もうと考えている。

「今回、サービスの競争力強化に向けて強力なツールを手にすることができました」と牧田氏。Nimsoft Monitorを使うことで、ユーザ企業は大きなメリットを享受できる。それは、システム全体の監視サービスのクオリティ向上と、トータルコストの削減だ。また、JBSのようなMSPにとっても、Nimsoft Monitorはビジネス拡大の大きな軸となる。これまで運用や管理に振り向けていた自社のリソースを新しいビジネスエリアの開拓という“戦略”へと大きくシフトできるからだ。

Nimsoft Monitorを軸としたビジネスの広がりにJBSは大きな期待を寄せている。

USER PROFILE

日本ビジネスシステムズ株式会社

資本金：2億3700万円
従業員数：630人
創業：1990年10月4日
本社所在地：東京都港区虎ノ門1-23-1
虎ノ門ヒルズ森タワー16F
事業内容：システムインテグレーション、ITサービス、アプリケーション開発、ERP/CRMソリューション。
URL：http://www.jbs.co.jp/



CA Technologies

お問い合わせ窓口：CAジャパン・ダイレクト 0120-702-600
WEBサイト：www.ca.com/jp

※製品の詳細情報については、弊社Webページ(www.nimsoft.jp)をご覧ください。CAジャパン・ダイレクト(0120-702-600)までお問い合わせください。

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

© 2012 CA, and / or one of its subsidiaries. All Rights Reserved. 2012年5月現在